

## ノンリニア構造を有する仮想症例開発による連携教育の検討

新潟医療福祉大学・後藤康志・真柄彰

### 【問題意識】

教材開発研究の経験上、教材でもっとも学ぶのは、それを利用する学習者というよりも、実は開発者自身である。単なる症例報告ではなく、学習目標を設定し、学習者のもつ知識・技能のレベルに適した連携教育のための仮想症例を開発することは容易ではない。本稿では、IPEのための連携教育に関する仮想症例開発を通して、教授者たる専門職自身（大学教員及び医療機関における指導的立場の専門職）がIPW及びIPEの力量を形成する可能性を検討したい。

### 【連合王国におけるIPE】

筆者らは2008年冬に連合王国でThe eViP Projectを視察する機会に恵まれた。ECのeContentplus Programmeによるファンドを受け、320に渉る症例が開発されており、それらは複数の文化と言語に対応し、カリキュラムに位置づけて利用可能である。Electronic virtual patients (VPs)は、医学的な訓練、教育、評価における、実際の診療のシナリオに準拠した対話的なコンピュータによるシミュレーションである。医学とヘルスケアに関わる専門職が同じ問題に直面し、解決のためには対話的なシナリオを通じた学習が必要である。ヴァーチャルなケースを利用することにより、リアルケースを扱う場合に比べて経費的にも患者の負担も軽減できるだけでなく、教育的に必要な要素を意図的に織り込むことも可能である。このような仮想的で、信頼性が高くしかも安全なシミュレーション環境は学生に実際のコミュニケーションとclinical reasoningのためのリハーサルの機会を提供する。

シナリオに沿いながら、問題を解決していく際に、医療及び福祉領域の知識を活用する。活用すべき知識は医療・福祉の領域固有であるが、問題解決的なアプローチをとっている。問題解決一般についてのより一般的な力量の形成も期待できる。実際のケースを省察的に振り返ることができるようなケースであれば、実践的な知識の使用のための良い訓練となり、意志決定や、根拠をどう判断するかなど多様な領域での力量が形成可能であるという。

### 【ノンリニア構造】

もっとも単純なVPsは、一つのストーリーで進んでいくものであるが、多くのVPsはコンピュータ上にいくつかの診療上の選択肢が提示され、利用者のとった選択によってその後の展開が変わるというものであった。複雑なシステムでは、

この選択の幅が拡充されており、関連する他の情報へのリンク（テキストなど）が張られていたり、選択肢によって提示される情報の量が変化したりする。オクスフォード・ブルックス大学のものは、状況によって必要な情報を制限して提示し、関係する文献、法規等を適宜参照することができる。

こうしたVPは、教育工学から見ると1990年代に提唱され、研究開発が行われたハイパーメディア(Hypermedia)教育システム開発の流れをくんでいる。ハイパーメディアの特徴の一つがノンリニア構造である(中野, 1992)。

### 【複数の専門職が対話によって仮想症例を開発する意義】

筆者にとって新鮮であったのは、その開発過程である。10人ほどの専門職がブレインストーミングをしながら、ノンリニアなVPsのストーリーを練っているようである。議論の中で、教授者たる専門職は学習者のもつ知識や技能のレベルを想定し、学習を通してどこまで到達させるかの目標を設定する必要がある。そこに導くためには、症例そのものをどう構成するかを複数の専門職との対話の中で産み出す必要があるだろう。筆者は、大学院の授業においてこのような仮想症例を個別に作成させる課題を課したことがあるが、個々で作成すると実際の症例になってしまう。同時に、仮想症例を専門職間の対話の中で検討することで、教授者たる専門職自身がIPW及びIPEの力量を形成する可能性も感じた。

### 【検討したい課題】

検討したい課題は次の2点である。第1に、IPEのための連携教育に関する仮想症例開発が、教授者たる専門職自身がIPW及びIPEのいかなる力量を形成するかの実証的研究である。ここではアクションリサーチによる質的研究が適用可能であろう。

第2は「持続可能な」仮想症例開発の環境をいかにして構築するかである。教授者たる専門職は多忙を極めており、一同に解することは困難である。「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」において整備されるICTシステムなどを活用し、「持続可能な」仮想症例開発の環境していく必要があるだろう。

### 【文献】

- 1) 中野照海. ハイパーメディアの構造と構成主義学習理論—ハイパーサイエンスキューブの開発から。視聴覚教育. 1992;46(7):24-27
- 2) 後藤康志, 真柄彰. ノンリニア構造を有する仮想症例の開発・利用による連携教育推進の可能性. 日本保健医療福祉連携教育学会大会講演論文集, 2009: (印刷中)
- 3) <http://www.virtualpatients.eu/> 2009/06/02 参照